



Vision TAKEDA-2020



# INDEX

---

Vision TAKEDA-2020の推進 経営理念と病院の使命	1
基本目標	2
Vision TAKEDA-2020 3つの柱	3
<b>I</b> 地域包括ケアシステムの構築	4～11
1. 地域包括ケアシステムの姿	
2. 竹田地域包括ケアシステムの全体図	
3. 竹田まるごと相談窓口	
4. 看護小規模多機能型居宅介護	
5. 早期児童発達支援事業	
<b>II</b> ICTの活用による医療・介護の質の向上と地域振興	12
<b>III</b> 国際化と人材育成の推進	16
ビジョンを実現するためには 職員一人ひとりがリーダーシップを発揮すること	17



# Vision TAKEDA-2020の推進 経営理念と病院の使命

平成30年(90周年)を新たなスタートと位置づける

経営理念

Vision TAKEDA  
2020

中期計画  
年度計画  
部門組織計画

## I 経営理念

信頼されるヘルスケアサービスを提供し地域に貢献する。  
職員が成長し喜びを感じられる組織風土を造る。

## I 使命

質の高い保健・医療・福祉の機能を提供し、地域の方の健康に関する問題解決を支援する。

2018(H30)年策定、3年間の経営計画

Vision TAKEDA-2020

基本目標 ▶ 良質で最適なヘルスケア・サービスの提供

- I 地域包括ケアシステムの構築
- II ICTの活用による医療・介護の質の向上と地域振興
- III 国際化と人材育成の推進

## 基本目標

医療・介護・保健の分野を包括した  
良質で最適なヘルスケア・サービスの提供

確かに

### 確かに

24時間・365日何時でも、  
確かな保健・医療・福祉のサービスを提供します。

### 安らかに

お客様に、さらに満足していただけるような  
『良質で最適なヘルスケア・サービス』を提供し、  
安心して生活できる地域を創生します。

優しく 安らかに

### 優しく

常に『良質で最適なヘルスケア・サービス』を  
効率的かつ優しく提供し、地域からの信頼に  
応えます。





# Vision TAKEDA-2020 3つの柱

---

## I 地域包括ケアシステムの構築

日常生活圏において医療・介護・生活支援のサービスが受けられる街づくり

## II ICTの活用による医療・介護の質の向上と地域振興

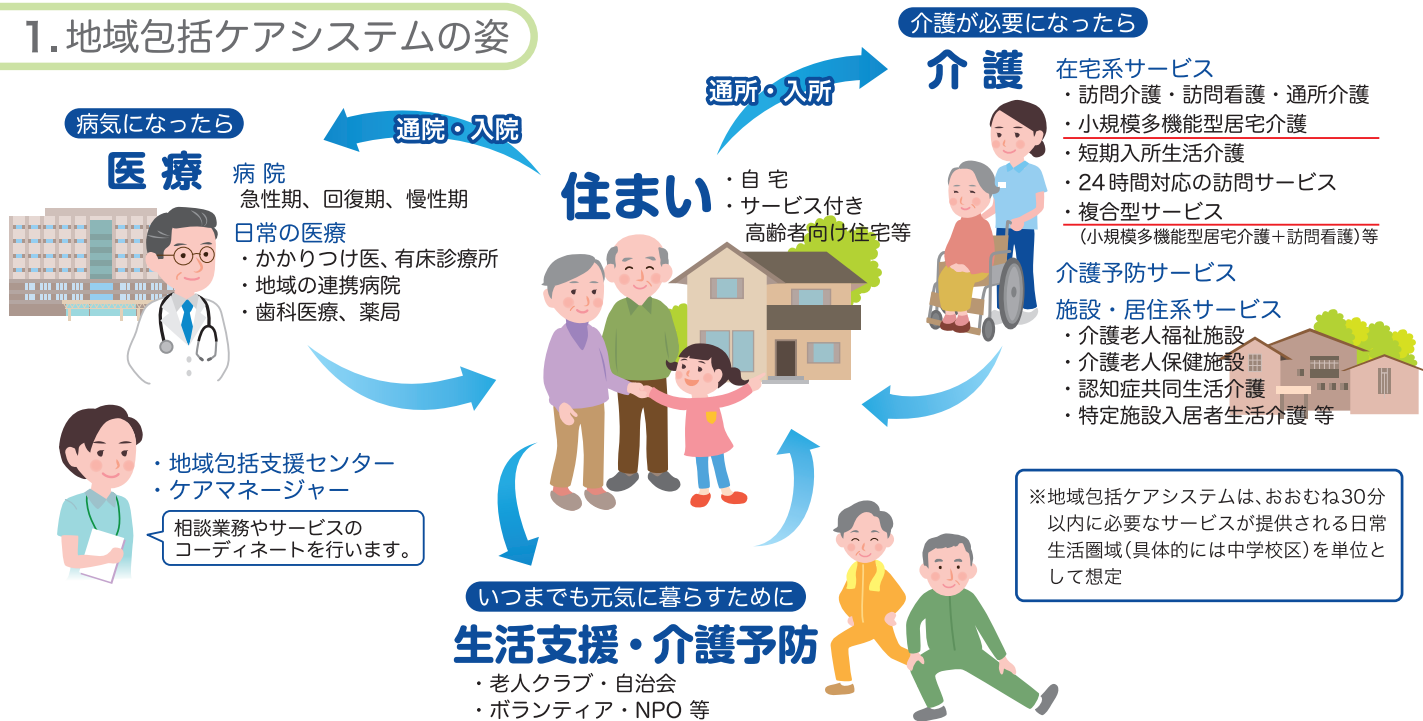
- ・ AI、ICT、ロボティクス等の研究・臨床応用
- ・ 大学や医療関連産業との連携

## III 国際化と人材育成の推進

- ・ 海外との交流促進、優秀な人材の育成と交流
- ・ インバウンドの推進

# 第1の柱 I 地域包括ケアシステムの構築

## 1. 地域包括ケアシステムの姿



### 医療と介護が相乗効果を創出する仕組み(連携の強化)

### 高齢者・障がい者・子ども・健常者のサポート

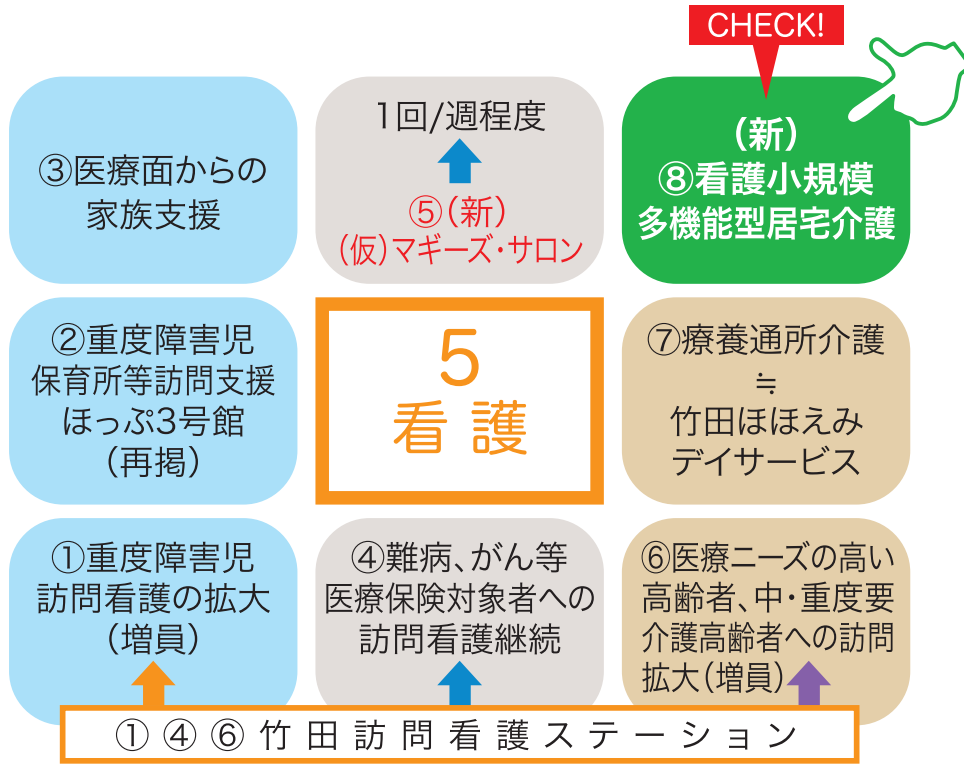


### 3. 竹田まるごと相談窓口

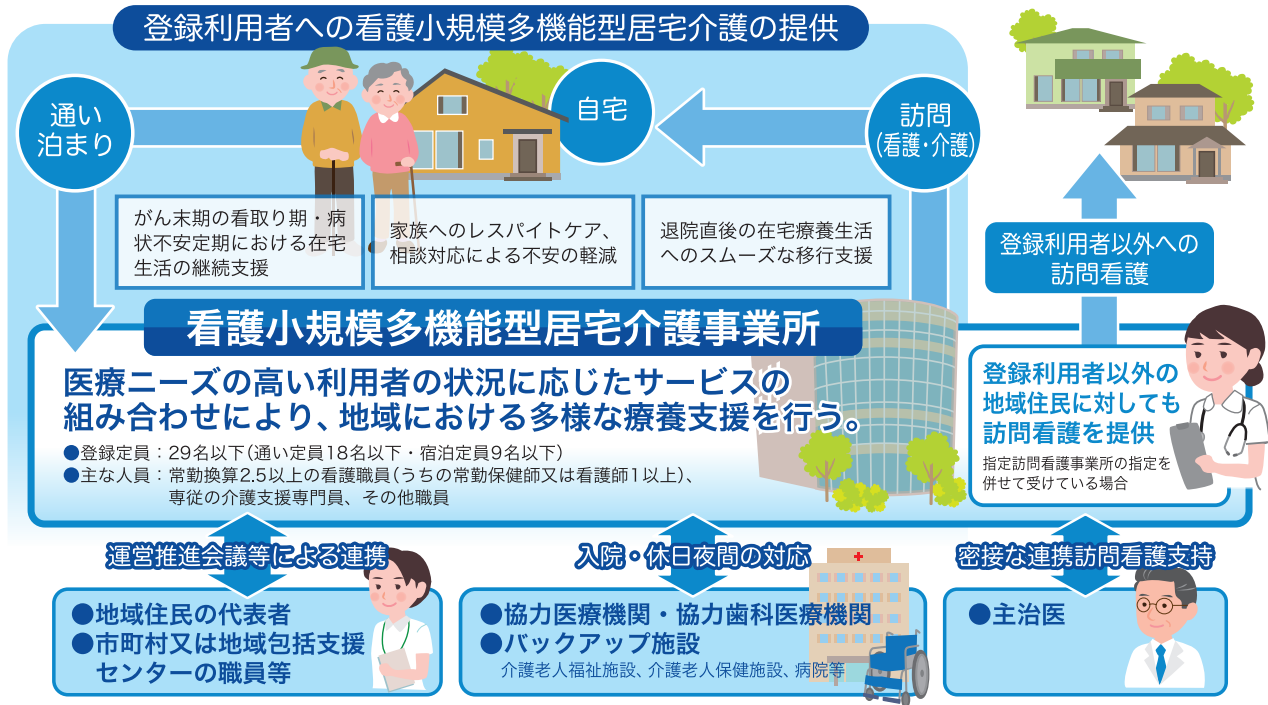
- ステイクホルダーからの様々な相談等を財団の持っているサービスをマッチングさせ、相談者の問題を解決するワンストップの窓口。
- 当財団の全てのサービスで相談者の問題を解決していく部署。
- ICTを活用し受診歴、利用歴、相談歴等を管理、一覧表示し、更にAIの活用も検討する。



## 4. 看護小規模多機能型居宅介護



## 看護小規模多機能型居宅介護の概要



主治医と看護小規模多機能型居宅介護事業所の密接な連携のもと、医療行為も含めた多様なサービスを24時間365日利用することができる。

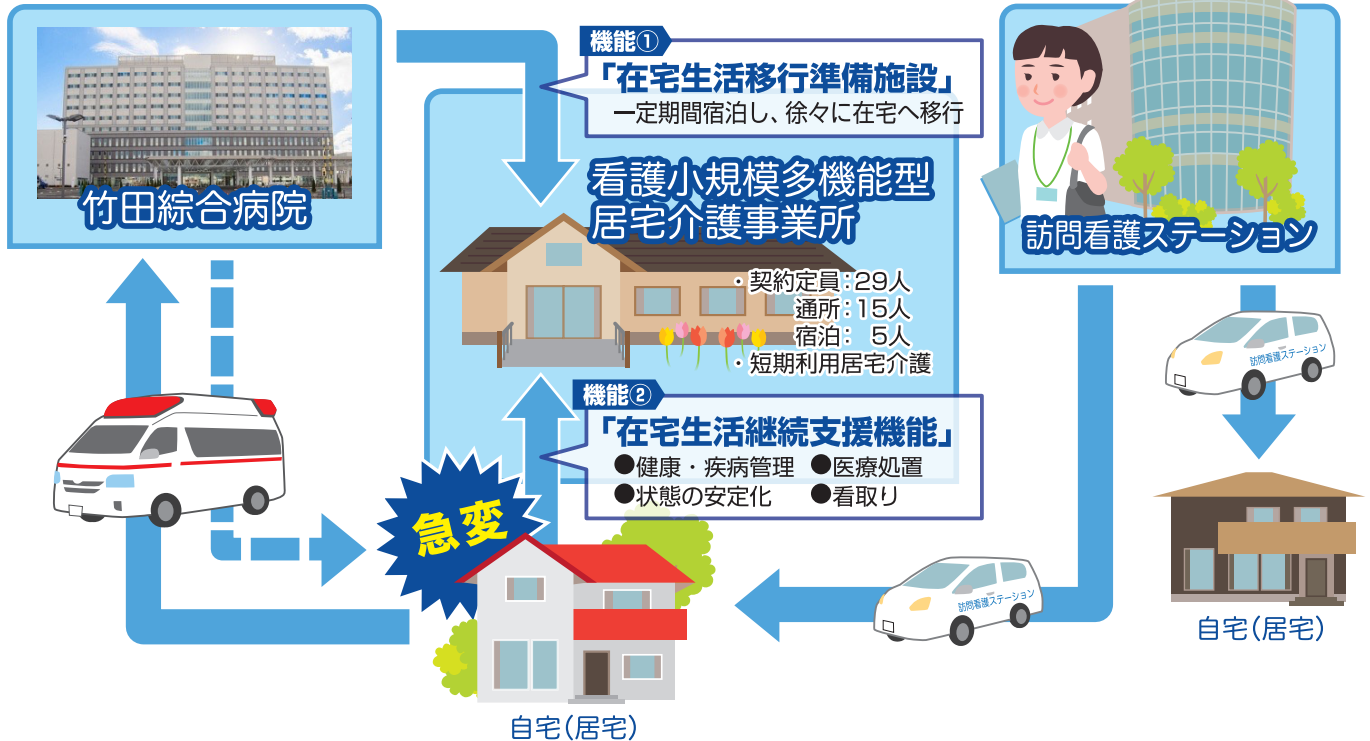
※医療ニーズへの対応が必要な利用者に対して、小規模多機能型居宅介護事業所では対応できなかったが、看護規模多機能型居宅介護事業所では対応できる。

看護小規模多機能型居宅介護事業所の介護支援専門員が、「通い」、「泊まり」、「訪問(看護・介護)」のサービスを一元的に管理するため、利用者や家族の状態に即応できるサービスを組み合わせることができる。

TAKEDA 地域包括ケアシステム整備プラン

看護小規模多機能型居宅介護事業所

医療ケア・重度者ケア

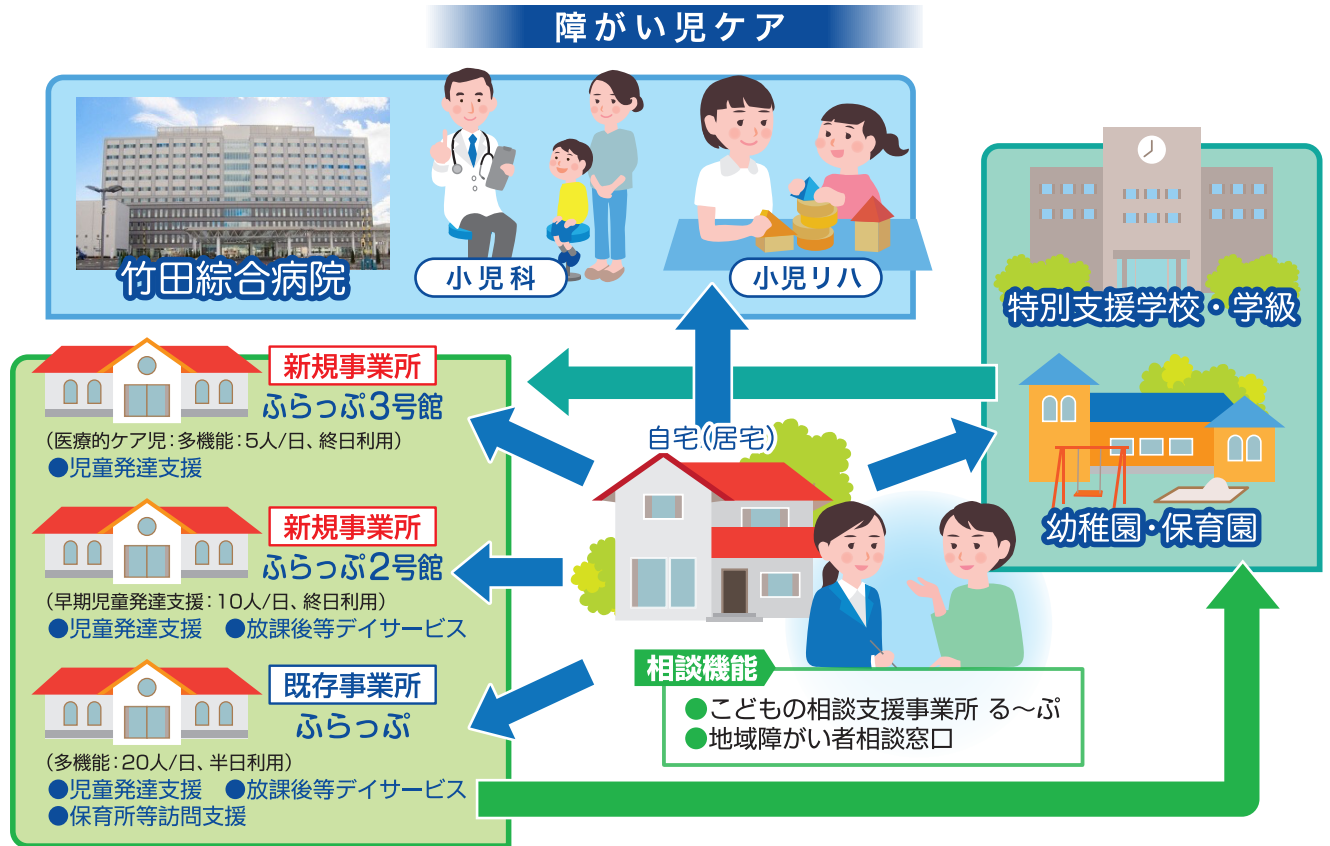


5. 早期児童発達支援事業 医療的ケア児への児童発達支援+放課後等デイサービス





TAKEDA 地域包括ケアシステム整備プラン

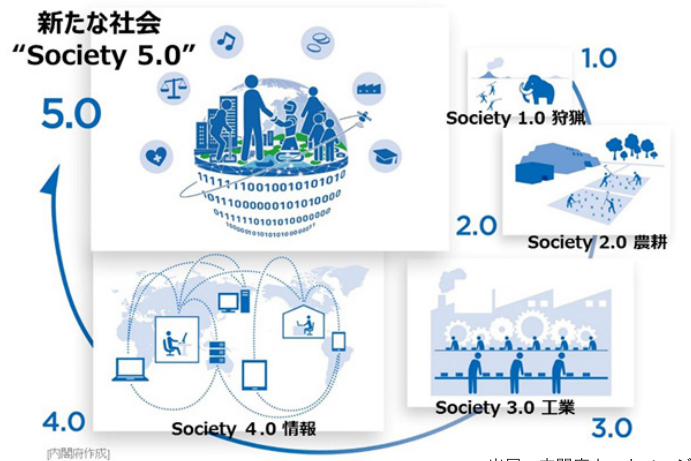


## 第2の柱 II ICTの活用による医療・介護の質の向上と地域振興

### Society 5.0の実現に向けて

#### Society 5.0とは

サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)のうち、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。



#### Society 5.0で実現する社会

Society 5.0で実現する社会は、IoT(Internet of Things)で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。

また、人工知能(AI)により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革(イノベーション)を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。

## ICTを活用した「次世代型保健医療システム」の考え方（「保健医療分野におけるICT活用推進懇談会」提言）

価値不在の情報化



患者・国民の価値主導

保健医療分野でのICT活用の「基本理念」：患者・国民の「well-being※」の実現

「基本理念」を達成するために創出すべき「4つの価値軸」

- ①患者本位の最適な保健医療サービス (Value for patient)
- ②国民全員の主体的な健康維持 (Value for people)
- ③持続可能な保健医療提供システムの実現 (Value for community)
- ④医療技術開発と産業の振興 (Value for service)

### 「3つのパラダイムシフト」と「3つのインフラ」

#### 【3つのパラダイムシフト】

集まるデータ



生み出すデータ

分散したデータ



データの統合

たこつぼ化



安全かつ  
開かれた利用

#### 【3つのインフラ】

##### ●次世代ヘルスケアマネジメントシステム(仮称)

- ・最新のエビデンスや診療データを、AIを用いてビッグデータ分析し、現場の最適な診療を支援

##### ●患者・国民を中心に保健医療情報を どこでも活用できるオープンな情報基盤

(Person centered Open PLatform for wellbeing ; PeOPLE(仮称))

- ・個人の健康なときから疾病・介護段階までの基本的な保健医療データを、その人中心に統合
- ・保健医療専門職に共有され、個人自らも健康管理に活用(全ての患者・国民が参加できる)

##### ●データ利活用プラットフォーム(仮称)

- ・「PeOPLE」(仮称)や目的別データベースから、産官学の多様なニーズに応じて、保健医療データを目的別に収集・加工(匿名化等)・提供

※well-being :人々の様々な生き方に対応し、国民が健やかに暮らし、病気・ケガの際には最適な医療が受けられ、いきいきと活躍し続けることができる状況・社会

## AIの医療分野への適用事例

### 1. 白血病の診断と抗がん剤選択の助言 / 東大医科学研究所 [IBM Watson]

- ・がんに関する論文2000万件、抗がん剤1500万件を登録
- ・女性患者の遺伝子情報1500件を入力
- ・「急性骨髄性白血病」 → 「二次性白血病」と診断、抗がん剤変更を提案

### 2. 症状と検査値から臨床推論 / 自治医科大学 [システム名：ホワイトジャック]

- ・次世代地域医療データバンクを参照し鑑別診断を支援

### 3. 救急患者のトリアージシステム / 慈恵会医科大学 [アプリ名：Join]

- ・スマホアプリとAIにより救急患者の容態を判断、搬送先を選定

### 4. ウェアラブル端末による遠隔モニタリング / 慶応義塾大学

- ・Apple Watch、iphoneと血圧計による循環器疾患患者の常時モニタリング

# 1 ICTの活用による医療・介護の質の向上

- ① ビッグデータを活用した予防・健康づくりの推進
- ② 遠隔診療の導入
- ③ AI・ゲノム解析等の技術活用による医療の質向上と新たな知見の獲得
- ④ 電子処方箋の普及推進
- ⑤ ビッグデータ・AIを活用した業務の最適化や効率化
- ⑥ リハビリや介護業務におけるロボット等による業務支援
- ⑦ 各種センサーを活用した見守りや安全確保の向上

# 2 会津大学や医療関連産業との 共同研究を推進し地域産業を振興 人口減少対策

- ① 会津若松市とアクセンチュアによるモデル事業  
・スマートウォッチ等による健康管理(生体データ収集、食事・生活習慣の改善指導等)
- ② ICTオフィスの開設、企業の誘致(会津若松市の取組み)
- ③ 会津地域スマートシティ推進協議会の発足(会津若松市を中心に構成)

## 第3の柱 III 国際化と人材育成の推進

### 1 UHC (ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ: Universal Health Coverage) の推進

UHCとは「すべての人が、適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられる」ことを意味し、WHO、世界医師会等が目指す国際的な健康保健政策プログラム。

### 2 中国荊州市・荊州市第一人民医院等との交流強化

中国との交流実績(昭和60年より) 45名受け入れ

- ① 研修医受け入れ拡大 期間6ヶ月⇒短縮、年2名×2回
- ② 学術交流 ◆学術講演会／本田雅人院長、石田義則科長、他3名講師として訪中  
H30.6.6～6.10 於 荊州市中心医院  
◆学術交流フォーラムの開催 H31年度から隔年開催
- ③ 人的交流を通じたマーケティング

### 3 海外市場担当部門の設置と体制強化

人口減少社会に備えてインバウンド患者受け入れと介護要員確保

- ① 中国富裕層(手術、生活習慣病、ドック等)の受け入れ
- ② 外国人医師、看護師、介護福祉士、ナースエイド等の採用
- ③ 通訳・交渉等のため外国人(英語、中国語)スタッフの採用
- ④ 外国人動向の情報収集活動(インバウンド受入会社等との調整)
- ⑤ 渉外部門の設置
- ⑥ 外国人患者受け入れ医療機関認証制度(JMIP)の受審
- ⑦ JCI認証取得の検討



# ビジョンを実現するためには 職員一人ひとりがリーダーシップを発揮すること

---

自分のリーダーシップを必要としているのは、どこかの誰という「他者」ではなくて、たった一度の人生を、自分の価値観に従って生き抜こうとする「自分自身」なのです。

（酒井 穰, 「リーダーシップでいちばん大切なこと」）

そして何より大事なのは、自分の心と直感に従う勇気を持つことです。  
あなた方の心や直感は、自分が本当は何をしたいのか知っているはずです。

「Stay Hungry, Stay Foolish」

（ Steve Jobs , 2005年 スタンフォード大学卒業式スピーチ）



# 一般財団法人 竹田健康財団

〒965-8585 福島県会津若松市山鹿町3番27号 TEL0242-27-5511 FAX0242-27-5670

## 竹田総合病院

〒965-8585 福島県会津若松市山鹿町3番27号  
TEL0242-27-5511 FAX0242-27-5670

## 山鹿クリニック

〒965-0862 福島県会津若松市本町1-1  
TEL0242-29-6611 FAX0242-36-5510

## 芦ノ牧温泉病院

〒969-5147 福島県会津若松市大戸町大字芦牧字埋ノ下811番地の1  
TEL0242-92-3241 FAX0242-92-3244

## 介護老人保健施設 エミネンス芦ノ牧

〒969-5147 福島県会津若松市大戸町大字芦牧字湯平527-1  
TEL0242-92-5111 FAX0242-92-5115

## 竹田看護専門学校

〒965-0862 福島県会津若松市本町2番58号  
TEL0242-29-3712 FAX0242-29-3714

## 法人事務局

〒965-8585 福島県会津若松市山鹿町3番27号  
TEL0242-27-5511 FAX0242-27-5670

## 介護福祉本部

〒965-0862 福島県会津若松市本町1-1 山鹿クリニック内2階 TEL0242-29-9985 FAX0242-29-9986

竹田指定居宅介護支援事業所

〒965-0862 福島県会津若松市本町1-1 山鹿クリニック内2階

TEL0242-29-9965 FAX0242-29-9968

若松第2地域包括支援センター

〒965-0862 福島県会津若松市本町1-1 山鹿クリニック内2階

TEL0242-27-0211 FAX0242-27-0235

竹田訪問看護ステーション

〒965-0862 福島県会津若松市本町1-1 山鹿クリニック内2階

TEL0242-27-0711 FAX0242-29-9855

竹田ほほえみデイサービスセンター

〒965-0875 福島県会津若松市米代1丁目5番87号

TEL0242-36-0880 FAX0242-36-0890

認知症専門デイサービス OASIS

〒965-0876 福島県会津若松市山鹿町4番3号

TEL0242-38-3386 FAX0242-38-3387

認知症専門デイサービス OASIS2号館

〒965-0876 福島県会津若松市山鹿町4番3号

TEL0242-27-5533 FAX0242-27-5550

通所リハビリテーション TRY

〒965-0863 福島県会津若松市湯川町1-66

TEL0242-29-0207 FAX0242-29-0338

総合発達支援プラザ ふらっぷ

〒965-0863 福島県会津若松市湯川町1番14号

TEL0242-29-0022 FAX0242-29-2588

特定相談支援事業所 たけだ

〒965-0862 福島県会津若松市本町1-1 山鹿クリニック内2階

TEL0242-29-2577 FAX0242-29-9974

こども相談支援事業所 へび

〒965-0862 福島県会津若松市本町1-1 山鹿クリニック内2階

TEL0242-23-7018 FAX0242-23-7028

地域障がい者相談窓口

〒965-0862 福島県会津若松市本町1-1 山鹿クリニック内2階

TEL0242-29-0025 FAX0242-29-9978

訪問リハビリテーション Life

〒965-8585 福島県会津若松市山鹿町3番27号 竹田総合病院内3階

TEL0242-29-0011 FAX0242-29-8400

## 経営理念

信頼されるヘルスケアサービスを提供し地域に貢献する。  
職員が成長し喜びを感じられる組織風土を造る。

## 使命

質の高い保健・医療・福祉の機能を提供し、地域の方の健康に関する問題解決を支援する。

## 行動指針

- ① 私たちは、地域の方に支えられてこそ病院が存在すると考えます。
- ② 私たちは、お客様のことを最優先に考えます。
- ③ 私たちは、お客様の喜びを自分の喜びとします。
- ④ 私たちは、お客様とは「患者さん+取引先+職員」と考えます。
- ⑤ 私たちは、新しいことへチャレンジします。
- ⑥ 私たちは、仕事をとおして自分を高めます。